

平成28年度事業計画書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成28年度も公益財団法人上原美術館として、これまで上原近代美術館・上原仏教美術館が行ってきた事業活動の継続を基本とし、より一層内容の充実した公益目的事業の推進を目指していく方針である。

上原近代美術館では、引き続き美術品の展示や保管、調査研究、地域の学校等と連携した教育普及活動に力を入れていく。

また、上原仏教美術館では、昨年10月より開始した展示ロビー・収蔵庫、事務所等の増改築工事で今年度は休館となるが、休館中も美術品の収集、整理、調査研究、研修会、講演会開催等の活動は継続実施していく。

1. 上原近代美術館及び上原仏教美術館の運営管理（定款第5条第1号）

<平成28年度美術館入館者及び収入見込み>

両美術館合計				
公益財団法人 上原美術館				
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計	
9,500人	570万円	100万円	670万円	

内 訳				
上原近代美術館				
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計	開館日数
9,500人	570万円	85万円	655万円	361日(*1)
上原仏教美術館				
入館者数	入館収入	図録等販売収入	収入合計	開館日数
—	—	15万円	15万円	— (*2)

(*1) 展示替のため、4日休館 (*2) 増改築工事のため休館（平成29年秋頃まで）

2. 美術品の展示及び公開（定款第5条第2号）

<上原近代美術館>

本年度は当館収蔵品を中心に年3回の展覧会を開催、それぞれにテーマを設けた企画展から所蔵作品の新たな魅力を紹介する。

『かたちの美 —上原仏教美術館の名品とともに—』

現在リニューアル工事のため休館中の上原仏教美術館が所蔵する、《十一面観音立像》等を当館の絵画作品等とともに展示する。

『はじまりの絵画 —画家の新たな物語—』

ゴッホ《鎌で刈る人(ミレーによる)》等、画家たちの初期や転換期の作品に注目する。

『冬の情景、そして春へ —モネから横山大観まで—』

冬から春をテーマとした印象派から日本近代洋画、日本画までの幅広い作品を紹介する。また、期末には絵画教室生徒の「作品展」を開催する。

◇◇ 展示計画 ◇◇

(1) 常設展、特別展

かたちの美 —上原仏教美術館の名品とともに—	
開催期間	平成28年3月16日(水)～7月19日(火) 126日間
はじまりの絵画 —画家の新たな物語—	
開催期間	平成28年7月22日(金)～11月27日(日) 129日間
冬の情景、そして春へ —モネから横山大観まで—	
開催期間	平成28年11月30日(水)～平成29年4月2日(日) 124日間

(2) 絵画教室生徒の作品展（会場 当美術館会議室 ※入場料 無料）

教室名	開催期間（開催日数）
デッサン・水彩画教室	平成29年3月下旬 [6日間]
日本画教室	平成29年3月下旬 [6日間]

(3) 館外出品

館外より貸出依頼があった場合、美術品の保存環境などを考慮し、公益性の高いものについては協力を検討する。

<上原仏教美術館>

上原仏教美術館は、平成27年10月1日より平成29年秋頃まで改修工事のため休館する。そのため、今年度は、市内公共施設を一時借用しての展示や隣接する上原近代美術館での共同展示公開を実施する。

(1) 実技講座（写経・仏像彫刻）作品展

会 期 平成28年6月23日(木)～平成28年6月30日(木)
例年行っている作品展。今年度は改修工事のため、市内展示施設にて約一週間開催する。

(2) 上原近代美術館との共同展示

会 期 平成28年3月16日(火)～7月19日(火)
上原近代美術館の展覧会にて、当館の収蔵品の一部を展示する。

3. 美術品の収集、整理及び保管（定款第5条第3号）

<上原近代美術館>

美術品の整理及び保管は、収蔵品管理システムと収蔵図書管理システムを活用し、利用者の問い合わせに対応できる体制をさらに整えていく。また、引き続き当美術館の所蔵作品を適切な環境で保存すべく努力を行う。温湿度管理に必要な空調自動システムやイナージェン消火ガスなど美術品保管環境の整備に必要な保守点検を定期的に行う。また、額装ガラス板の無反射アクリル板化も継続予定。

<上原仏教美術館>

当館の設立趣旨に合致し、美術作品として質が高く、あるいは文化財として学術的に価値の高い仏像、仏画、古写経などを、機会をとらえて収集することを検討。また、工事休館中ではあるが、当館の所蔵品についても一部は上原近代美術館の収蔵庫を借用するなど適切な環境での保管に十分配慮した対応を行っていく。

4. 美術品に関する調査研究及び研修会、講演会等の開催

(定款第5条第4号)

<上原近代美術館>

(1) 調査研究

本年度も収蔵品、収蔵作家を中心に、学芸員による調査研究を行う。

(2) 研修会の開催

「デッサン・水彩画教室」「日本画教室」の2教室を開催。

デッサン・水彩画教室		
講師	定員	開催日時
小野 憲一氏	23名(予定)	毎月2回(年24回) 第2・4水曜日
日本画教室		
講師	定員	開催日時
牧野 伸英氏	23名(予定)	毎月2回(年24回) 第2・4火曜日

(3) 講演会の開催

平成28年度も専門家を招いて美術講演会を開催する。また、各展覧会に合わせて、学芸員による作品解説も実施する。

(4) ワークショップの開催

地域の学生が美術を学ぶ機会を作るため、夏休みなどに講師を招いてワークショップを開催する。

(5) 教育普及活動の研修会

当館を教育目的に広く利用してもらえるよう教員等を対象とした鑑賞教育のための研修会を行う予定である。

<上原仏教美術館>

(1) 調査研究

①伊豆半島の仏像悉皆調査

開館以来行ってきた、伊豆半島内の仏像悉皆調査を今年も継続して行う。過去の調査は鎌倉時代以前の古い仏像を対象を限定した優品調査であったが、室町時代以降の仏教文化財に関してもデータの収集に努める。

②文化財調査（外部からの調査依頼対応）

近年当館には、寺院や教育委員会からの文化財調査依頼が多く寄せられている。今年もこれらの依頼に対応し、伊豆やその周辺地域の仏教美術の情報を積極的に収集する。

③研究調査

今年度も地域に伝えられた地誌や古記録などこれらの文献資料の研究を継続し、様々な仏教美術が制作された背景や、それらの文化財の伝来の歴史を明らかにし、精度の高い研究を目指す。

(2) 講演会の開催

仏像・仏画などの仏教美術や歴史学、仏教学などの第一線で活躍する研究者や専門家を講師として招き、講演会を開催する。

(3) 研修会の開催

今年度も継続して以下の3教室（仏像彫刻・写経教室・仏教美術講座）を開催する。いずれの教室も会費は無料とする。

仏像彫刻教室		
講師〔仏像彫刻家〕	定員	開催日時
岩松 拾文氏 大谷 文進氏	50名	毎月1回（年12回） 第3日曜日
写経教室		
講師〔仏画家〕	定員	開催日時
山田 修也氏	40名	毎月1回（年12回） 第2日曜日（午後）
仏教美術講座		
講師	定員	開催日時
当館学芸員	25名	毎月1回（年12回） 第2日曜日（午前）

5. 美術品に関する資料の収集、保管及び公開（定款第5条第5号）

<上原近代美術館>

本年度も、カタログ・レゾネ、書簡、挿画本などの貴重書をはじめ、当館が収蔵する美術品を広く活用するための研究に資する資料を収集する。また公開用図書、資料などの収集も行う。

- (1) 研究図書・資料の公開
- (2) 美術誌（月刊美術誌等）の公開

<上原仏教美術館>

仏像・仏画・古写経など仏教美術に関する研究書や図版を中心に、広く仏教文化に関する文献や資料を収集する。また伊豆半島の地誌についても積極的に収集を行い、当館の調査研究活動を行うための基礎資料の充実を図る。

6. 美術品に関する解説書等刊行物の作成頒布（定款第5条第6号）

	上原近代美術館	上原仏教美術館
年間展示予定	平成28年度美術館案内の作成、年間展示予定表を掲載	工事休館中のため作成せず
ポスター等	展示会毎にポスター・チラシの作成頒布	教室作品展のポスター・チラシ等作成
美術館だより	年4回発行 (1回約1,500部を無料配布)	隔月で年6回発行 (1回約2,200部を無料配布)
その他	展覧会に合わせて、出品一覧リストを来館者へ無料配布 学校向けに、教育目的の美術館利用手引きを作成、無料配布	仏像、仏画の調査で得られたデータをまとめ、順次刊行。 完成した報告書は伊豆半島内の教育委員会、図書館、調査寺院、研究者に配布

7. その他目的を達成するために必要な事業（定款第5条第7号）

- (1) 両美術館で所蔵する映像や調査活動等で撮影した画像データを講演や小中学校の出張授業で広く公開する。
- (2) 両美術館共に学校や教育委員会などと連携し、出張授業、授業入館を随時受け付け、実施し、学校教育との連携を図っていく。本年度も小・中・高校生を対象に毎週土曜日を無料入館日とする。

以 上